

## 勢多だより No.70 (2005.12.26)

著者	「勢多だより」編集担当者会議
発行年	2005-12-26
その他の言語のタイトル	Seta dayori No.70 (Dec.26, 2005)
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10422/1296">http://hdl.handle.net/10422/1296</a>

# SETA DAYORI No. 70

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

## メインテーマ：若鮎祭特集

### トピックス

- ・第31回 若鮎祭を終えて 医学科第4学年 八木 典章 1
- ・実行委員の感想 3
- ・第2回 国立大学法人滋賀医科大学全学集会を開催 6

### 新任教員紹介

- ・10月1日付 内科学講座 前 川 聡 助教授 7
- ・11月1日付 内科学講座 伊 藤 誠 助教授 8
- ・11月1日付 臨床看護学講座 盛永 美保 講師 9

### キャンパスライフ

- ・学生表彰 10
- ・海外自主研修
  - アメリカ自主研修を終えて 医学科第4学年 増田 俊樹 12
  - 自主研修を終えて 医学科第4学年 松岡明希菜 14
- ・滋賀医科大学の留学生支援に想う 病理学講座 教授 服部 隆則 16
- ・外国人留学生等の宿泊研修旅行実施 18
- 研修旅行に参加して 18
  - 生化・分子生物学講座 外国人客員研究員 安 朋 萍 18
  - 解剖学講座 大学院生 黄 玉 紅 19
- ・サークル紹介
  - 空手道部
  - 空手をやりませんか 医学科第3学年 立石 周平 20
  - 国際保健医療研究会 22
  - ラオスでの農村生活を体験して医療を考えたとき 医学科第2学年 関 千寿花 22

### インフォメーション

- ・平成17年度 医学科第2年次後期学士編入学入学宣誓式 24
- ・平成17年度 第1回学位授与式 25
- ・第31回 滋賀医科大学解剖体慰霊式 26
- ・平成17年度 研究動物慰霊式 26
- ・平成17年度 後期消防訓練 27

### 学生課からのお知らせ 28

### 編集後記（今本編集長） 29

## トピックス

## 若鮎祭特集

## 第31回 若鮎祭を終えて

実行委員長 医学科第4学年 八木 典章



10月30日午後9時過ぎ、僕は決々ステージへと上がりました。しかし、ステージに上がると、たくさんの人がステージの前に集まってくれ、暖かい声援をかけてくれました。その瞬間、開始時刻が遅くなった事情をどのように説明しようかという不安、今までの苦労や辛い思い出がすべて吹き飛び、実行委員長をやっていて本当に良かったという思いから、思わず「滋賀医大、最高!!」と叫んでしまいました。

実行委員会の事情で、開始時間を大幅に遅らせ、さらに音響効果を一切使わず、肉声だけで行ったにも関わらず、ステージ前に集まってくれたみんなの暖かい声援で、感動的なものになったファイナーレで第31回若鮎祭は終わりました。

そんな感動的な終わりを迎えることが出来た第

31回若鮎祭ですが、初日の土曜日は雨でした。予期しなかった雨への対応でこの日、実行委員会のメンバーはてんてこ舞い！特にグラウンドに設置した臨時駐車場の地面はぬかるみ、この補修作業はみんなをどっと疲れさせました。しかし、2日目は、前日の雨が嘘であったかのような晴天になり、フリーマーケット、模擬店や医学展などの各企画も軒並み大盛況で、例年以上に多くの方々に足を運んで頂けました。さらに2日目には、企画の中でも「目玉」企画であるBENNIE Kによるライブが行われ、観客の熱気で寒さを忘れるほど会場が盛り上がり、大成功を収めることができました。

今年の若鮎祭がこのように大成功を収めることができたのも、早期に実行委員会を立ち上げ、

みんなを巻き込んで一緒に企画を考え、その内容に工夫を加えることができたからだと思います。そのことこそむしろ今年の若鮎祭の「目玉」であり、そのことについて書きたいと思います。

私たち実行委員会は、第30回実行委員会からの引継ぎで伝えられた「実行委員会の早期立ち上げ」というアドバイスをもとに3月3日に立ち上げを行い、例年とは異なる新しい若鮎祭にしようという目標を全員で掲げました。

その目標を達成するために、「この指とまれ！～滋賀医大だよ、全員集合～」というテーマを掲げ、メイン会場を中庭から西門駐車場に移転させたり、クラブに所属していない学生に「学年テント」という模擬店を出してもらうなど、みんなが楽しめるように様々な企画案を出し、それをみんなで議論し、一歩ずつ若鮎祭を作り上げていきました。

担当学年のメンバーにも恵まれました。担当学年である医学科4回生、看護学科2回生両学年とも、みんな仲良く、まとまりがあり、意見交換も盛んで、若鮎祭を「楽しむ」ではなく、「楽しんでもらう」という気持ちでみんなが1つにまとまっていったのも、若鮎祭成功の鍵であったと思います。

また、地元企業であるエフエム滋賀(e-radio)と本庄(イベント会社)の協力を得たことも成功の大きな要因です。この両社は、私たち実行委員会

の「支え」でした。両社のスタッフの方々は、実行委員会のメンバーと同じ目線に立って、名刺の交換の方法から、どのようにしたら若鮎祭が盛り上がるかまで、親身になって相談に乗ってください、本当に心強かったです。

最後に、僕が実行委員長という立場で約半年間を過ごしてきて強く思うのは、若鮎祭を作っていく中で欠かすことの出来ないもの、それは、みんなの、そして皆さんの「協力」であるということです。

担当学年の学生はもちろん、吉川学長を始めとする大学教職員の皆様、永田先生を議長とする学生支援室会議の先生方、学生に一番近い存在としてご尽力頂いた学生課の皆さん、直前に申し出たわがままを聞いて下さった看護学科の先生方、西門駐車場の車を0台にするために協力して下さったお車で通勤・通学されている教職員・病院職員・学生の皆さん、物品援助にご協力下さった生協の皆さん、騒音や交通渋滞にご理解下さった近隣住民の皆さん、病院の患者の皆さん…。ここではほんの一部の方々しか挙げることは出来ません。しかし、今回の若鮎祭に関わって下さった皆さん全員の「協力」があったからこそ、大成功を収めることが出来ました。協力して下さった皆さんに、心から感謝し、御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



会議中の実行委員会

## 実行委員の感想

### 副委員長 磯久 太郎

みなさん、お疲れ様でした。今年は会場の場所を西門駐車場に変えたことから始まり、グラウンドを駐車場にしたり看護学科棟を使わせてもらったりと初めてづくしのことばかりでしたがなんとか無事に、そして盛大な学園祭を行うことができました。

今までは学園祭を楽しむ側だったのが今年は実行委員として学園祭を楽しませる側として参加しましたが、正直に言ってしんどかったです。また機会があったとしてもやりたくはないなって感じです。でも春頃に実行委員を立ち上げてからというものの充実した日々を送っていたなと思います。パソコンを打つのも少し上達しました(笑)。さらに僕にとっては学生時代に社会と触れ合えるいい機会が多く、多くの業者の方々と出会い、社会の厳しさを垣間見たりなどいい勉強をさせてもらいました。この経験は今後の人生に役立つものであり一生の財産になりました。ありがとうございました。

### 副委員長 伊原 正幸

皆さん若鮎祭は楽しめましたか？この10年学祭では雨など降ったことがないと言われながら大雨が降ったり、ご近所さんから騒音の苦情が出たりと色々とハプニングもありましたが、多くの来場者にも恵まれ大成功だったと思います。この成功は担当学年である医学科4年、看護学科2年を始め、その他大勢の方々の協力があったからこそその結果だと思います。皆さん本当にお疲れ様でした！

### 副委員長 中村 武弘

今年の若鮎祭で、メイン会場を移転するにあたり、協力してくださった先生方、並び



に朝早くからグラウンドにラインを引く仕事や雨の中ゴミの仕分けをする仕事、夜寒い中の警備の仕事など若鮎祭を陰で支える仕事を引き受けてくれた皆さん、本当にありがとうございました。皆さんと一緒に若鮎祭に関われた事を誇りに思います。

### 副委員長 片岡 愛

今振り返ると長いようで短かったです。当日の二日間は特に時間が過ぎるのを早く感じました。ずっと実行委員会で活動してきて、楽しいことよりはやっぱり大変なことのほうが多かったです。それでも、頑張ることが出来たのは同級生の友達、4回生の先輩方の支えがあったからだと思います。本当に皆様ありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

### 副委員長 庄司 愛実

「みんなに楽しんでもらえる学祭にしよう」実行委員会で委員長が言った言葉で一番印象に残っている言葉です。二日間、医学科4年と看護学科2年がこの言葉を実現するために頑張ったと思います。イロイロありましたが、楽しんでもらえたと思います。人に見える仕事も、見えない仕事も沢山ありましたが、どちらも大変だったと思います。みなさんお疲れ様でした。楽しかったです。

### 副委員長 豊田 美月

若鮎祭に実行委員として始めから関わることができたおかげで大勢の人と知り合い、たくさんのことを学ばせていただきました。周りにいて下さったすべての人に支えられたからこそ学祭を終えることが出来たと思います。本当にありがとうございました。



## 企画局局长 水野 文

企画局のメンバーの頑張り、他局や委員会の協力があって、楽しいイベントを作ることが出来ました。当日お客さんに喜んでもらえたことはすごく嬉しかったし、みんなにたくさんのわがままを受け入れてもらい感謝しています。

最後に…きむきむ、紫乃ちゃん、そしてやんぎい、ありがとう！学祭は一生の思い出です。



## 企画局副局長 木村 和也

「生涯祭(まつり)」

学祭を終え、私は平凡な毎日を送っていました。そして、「忙しい日々も終わった〜!!」という思いに浸っていました。しかし、その思いとは裏腹に、何ともいえない喪失感がよぎりました。その時ふと感じました。「これが充実感なんやな〜」と。私は、知らないうちに充実した

日々を送っていたのです。

この「祭」を通し、私は、本当の充実した日々は、それを失ってから気付けるものであり、その最中には

なかなか気付けないものだということを実感しました。このことを心に留め、充実した日々を送っていこうと思います!!

## 企画局副局長 光内 紫乃

若鮎祭お疲れ様でした。みんなで力を合わせたことで今年も若鮎祭を成功させることができました。若鮎祭を作り上げていくなかで、私に企画局副局長という役目が果たせたかという、正直あまり自信はありません。しかし、実行委員の皆さんや実行学年の皆さんに支えられて、どうにか役目を終えることができましたと思います。至らない私を支えてくださった皆さん、本当にありがとうございました。



## 広告局局长 松林 潤

今年の広告局18名はどこよりも早く発足し、活動を始めました。それはできるだけ多くの広告契約を取り、学祭の運営資金を集めるためです。今年は180万円を目標にし、みごと達成しました。これは4月から、地道にコツコツと企業をまわった広告局員の努力の成果です。広告局の仕事は完全に裏方ですが、企業に頭を下げて広告を掲載して頂き、お金をもらうというのは、とてもいい経験になりました。

## 広告局副局長 高橋 雪輝

フィナーレで歌ったときの気持ちよさや、Y木君、服T君の涙はきっと忘れないと思います。人が一生懸命になっている姿や情熱が、徐々に周りの人たちを動かしていき、最後に一つのかたちになる、そんな輪の中にいられたことをとても感謝しています。

## 広報局局长 香取 さやか

今年は新しいことづくしの若鮎祭でしたが、広報局も、若鮎祭通信、デザインコンテスト、選べるTシャツ・パーカー、駅前広報イベントなど、実験的な楽しい取り組みをたくさん行いました。自治会長さんとの信頼関係作りや、徹夜のビラ作り、早朝ずぶぬれの御近所回り、トラブル対応などなど、エピソードはとても書ききれませんが、この半年が一生ものの思い出になったのは間違いありません。ありがとうございました！

## 広報局副局長 貴島 祥

今年は学外で風船を配るなど新しいアイデアをいろいろと試すことができ、素晴らしい経験をさせてもらいました。どのアイデアも他局の協力と広報局全



員の頑張りのおかげで、成功させることができたのだと感じています。学祭中には予想もしないハプニングがあったりもして、とても素敵な思い出になりました。

## 広報局副局長 加門 千寿

3月3日に実行委員を立ち上げてからの8ヵ月間は、私にとって本当に充実した8ヵ月間でした。多くの貴重な体験や、日頃接することのない方々との出会いがあり、忙しかったけれど、最高の思い出となりました。たくさんの方々のご協力、本当にありがとうございました。



## 財務局局长 坂下 拓人

今年の若鮎祭は会場の移転を中心に例年とは違う試みをしようということでスタートしました。何百万円ものお金を管理しなければならない責任と、会場移転、ライブ等にかかる費用が未知数ゆえに大赤字になるのではという心配がありましたが、皆の協力によって無事終えることが出来ました。来年度以降の若鮎祭が今年の反省点を生かしてよりよいものへと発展していくよう祈っています。

## 財務局副局長 佐伯 有香

今年の若鮎祭はいろんなチャレンジがありました。ひいき目かもしれませんが、だからこそすごく楽しくおもしろい学祭になったと思います。何かを創る大変さを乗り越える一人一人のパワーとそしてそれが集まったみんなのパワーをすごく身近に感じられたという点で実行委員の一員になってよかったなと思います。みなさんお疲れさんでした。

## ステージ局局长 森田 幸弘

若鮎祭お疲れ様でした。今年はメイン会場が西門駐車場に移ったこともあり、今までになくとて

も大きな学園祭になりました。このようなすばらしい学園祭を運営・実行できたのは、とても光栄なことでした。ありがとうございました。

## ステージ局副局長 鈴木 春香

ステージ局副局長として第31回若鮎祭に参加することができ良かったと思います。当日までの準備は大変でしたが当日は忙しいけれど非常に私自身が楽しめました。ステージ企画と一緒に盛上げていただきありがとうございました。

## 総務局局长 服部 健吾

終わって思うことは、とにかく無事に終わってよかったということです。総務局は、会場の設営や警備の配置などの裏方仕事を一手に引き受け、それだけに局員にも大変な思いをさせたいと思います。色んな人に支えられ、助けられて無事に終わらせることができました。この場を借りてお礼を言いたいと思います。有難うございました。今年の初めに何人かで「みんなが楽しめる若鮎祭」を合言葉にスタートしましたが、皆のお陰で少しはその目標も達成できたのではないかと思います。来年度もその思いを引き継いで、でもその学年の色を出した若鮎祭を作っていって欲しいと願っています。

## 総務局副局長 岩村 麻美

副局長として長期間、学祭に携わることで、楽しみつつ貴重な体験をさせて頂きました。総務局は広範囲に亘った仕事が多く、色々な方のお力添えの上、成り立つことが出来ました。本当にありがとうございました。





## 第2回 国立大学法人滋賀医科大学 全学集会を開催

去る11月28日(月)午後5時半から臨床講義棟2階の臨床講義室3において、「法人化後1年を振り返って」と題し、全学集会を実施しました。

当日は、約200名の教職員の参加を得て、まず、吉川学長から「総括」としてこの1年間の実績と成果の報告があり、さらに見えてきた課題等について説明がありました。引き続き馬場理事から「教育・研究」について、森田理事から「診療・病院」について、村山理事から「経営等」について、また若林理事から「総務等」について報告がありました。

参加者からは、保育所の設置、給与改定、アスベスト対策などについての質問や意見が相次ぎ、それぞれ担当の立場から説明を行いました。

また、最後に助講会から「教員制度の在り方について」の提案が出されました。

なお、全学集会のアンケート結果等は、滋賀医大ホームページ「まるっと滋賀医大」に掲載されています。



## 新任教員 紹介

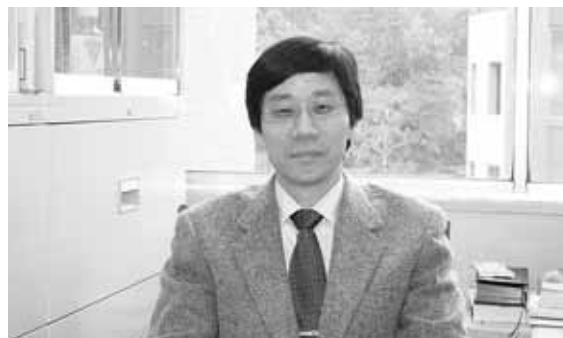
### 内科学講座 助教授就任挨拶

助教授 前 川 聡

平成17年10月1日付けで、内科学講座（内分泌代謝）助教授を拝命致しました。昭和56年に滋賀医大を卒業して、早いもので、4半世紀、25年目を迎えました。学生時代を含めると、学外研修と海外留学の期間を除いても、一番長く滋賀医大に在籍している者の一人だと思います。

専門は、内分泌・代謝学で、糖尿病診療を中心に従事しています。近年の糖尿病患者数の増加傾向は著しく、まさに「国民病」と言う状況です。湖南地域において、滋賀医大を中心とした糖尿病患者の病診連携を促進できればと考えております。また、増加の一途をたどる肥満を基盤とした生活習慣病予防対策のため、生活習慣病センターの一員として、生活習慣是正に向けた食事、運動および生活習慣介入の教育プログラムの開発にも取り組んで行きたいと思っております。

研究は、「インスリン抵抗性の臨床的意義の解明」をライフワークに、現在、「ヒトはなぜ肥るのか、どうして肥満は悪いのか」について、理化学研究所遺伝子多型センターおよび本学外科学教室と共同研究を行っています。また、福祉保健医学講座による動脈硬化症とその危険因子についての国際比較疫学調査（ERA-JUMP研究）にも参加させて頂いております。インスリン抵抗性や肥満の発症機構やその病態の解明を通して、糖尿病を含めた生活習慣病の発症阻止ができればと考えています。瀬田から世界に向けて情報を発信できるよう、臨床、研究に取り組んで行きたいと思



ます。

最後に、先日、開学当時のことについて京都新聞から取材を受けました。学生実習で白浜に行ったことや1回目の若鮎祭のことなど懐かしい思い出はたくさんありますが、なにより熱心に教えてくださった多くの先生方のことを思い出します。私も微力ながら、滋賀医大の後輩の学生の皆さんに、医療を担うものの使命、重責と達成感、さらに、研究や臨床の面白さを伝えることができるよう精進したいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。



#### （経歴）

昭和56年 3月 滋賀医科大学医学部医学科卒業  
昭和60年 3月 滋賀医科大学大学院医学研究科修了  
昭和61年 7月 米国カリフォルニア大学  
サンディエゴ校 医学部  
内科 内分泌代謝部門 研究員  
昭和63年 2月 滋賀医科大学 第三内科 助手  
平成 7年11月 滋賀医科大学 第三内科 講師(学内)

平成10年 8月 滋賀医科大学 第三内科 外来医長  
平成13年 4月 滋賀医科大学 第三内科 病棟医長  
平成14年 4月 滋賀医科大学 内分泌代謝内科 副科長  
平成15年 7月 滋賀医科大学  
内科学講座（内分泌代謝）講師  
平成17年10月 滋賀医科大学  
内科学講座（内分泌代謝）助教授



## 内科学講座 助教授就任挨拶

助教授 伊 藤 誠

平成17年11月1日付けで、内科学講座助教授を拝命致しました。私が本学に赴任いたしました1983年頃は、循環器内科領域では診断学と内服薬中心の医療が行われていました。米国に留学中の1991年頃、頻脈性不整脈に対する高周波を使ったカテーテルアブレーション治療が安全に行われていることを目の当たりにし、帰国後早速本治療を開始いたしました。その結果、頻脈発作のため生活制限を余儀なくされていた患者さんからアブレーション治療を受け発作から解放されてからは旅行にも行けるようになったと大変感謝されるようになりました。当初はカテーテルや高周波発生装置等のデバイスも十分にそろっておらず大変苦労しましたが、徐々に紹介患者も増え、治療成績並びに症例数も国内トップクラスにまでなりました。これもスタッフやコメディカルの協力が得られるようになった結果であると感謝しています。

研究領域ではイオンチャネルの働きから得られる心筋細胞電気生理を背景にしたシミュレーション研究の成果を国際学術誌に発表できるようになりましたが、この分野も遺伝子解析を含めた進歩が著しく一日たりとも安穩とはできません。

また、近年では心室頻拍／心室細動による突然死に関する埋込型除細動器(ICD)や心不全に対する心臓再同期療法(CRT)に関する大規模臨床研究のエビデンスも蓄積されてきています。その一方、一般市民にも体外式除細動器(AED)を使用した救命活動の啓蒙が行われるようになり、学

内にも既にAEDが各所に設置されています。本邦ではICD、CRTとも厳しい施設基準をクリアしている施設にしか認可されておらず、本附属病院がこうした施設認定を受けているのは、心臓血管外科をはじめとした臨床成績が一流であることの証明であると受け止めております。

さて、不整脈は動悸など比較的軽いものから失神の様な生命に直結する重篤な場合もあり、また症状も多彩なため、実は様々な基礎疾患のうえに発症してくる症候群であることを忘れがちです。遺伝子異常を基礎にしている特殊な疾患もありますが、大多数は高血圧、狭心症・心筋梗塞などの虚血性心疾患、心不全、メタボリックシンドローム、糖尿病等の内分泌・代謝疾患、電解質異常などから生じており、これらを含めた総合的治療が重要なことはいまでもありません。

このように不整脈は正にfrom cell to bedsideのかたちで基礎研究から臨床までをつなぐことのできる分野です。本年8月から不整脈センターが開設されましたのはベストのタイミングであり理想的な教育が行える環境が整ったと考えております。

今後、教育・研究・臨床がますます忙しくなり、皆様のご協力を仰ぐ機会が増えるとは思いますが、何卒よろしく申し上げます。



### (経 歴)

昭和54年 3月 金沢大学医学部医学科卒業  
昭和58年 3月 金沢大学大学院医学研究科修了  
昭和58年 4月 滋賀医科大学 第一内科 助手  
平成 3年 1月 米国インディアナ大学  
クラナート心臓研究所 リサーチフェロー

平成 7年 4月 滋賀医科大学 第一内科 病棟医長  
平成 7年 5月 滋賀医科大学 第一内科 講師  
平成 9年 4月 滋賀医科大学 第一内科 外来医長  
平成17年11月 滋賀医科大学 内科学講座(循環器) 助教授

## 臨床看護学講座 講師就任挨拶

講師 盛永 美保

平成17年11月1日付けで看護学科臨床看護学講座（成人看護学）講師に着任致しました。本学へは平成11年10月より2年半、同講座の助手として勤めさせて頂いておりました。その後、更なる研鑽が必要と思い、進学のため退職しましたが、今年4月1日より附属病院看護部でリサーチナースとして勤務させて頂いておりました。

私はこれまでの臨床と教育の経験の中から看護職の卒後教育はもとより、卒前の教育の重要性を強く感じました。看護職は生涯教育が必要であり、そのためには自己効力感や自己教育力の強化が重要で、その動機付けは卒前に行うことが効果的と考えるようになりました。そうした教育をしていきたいと思っています。そのための手段の1つとしてCAI(Computer Assisted Instruction)の開発を考えています。

成人期は人の一生を考えた時、一番長い時期にあたります。その対象となる幅広い人々の看護を実践するには多様な価値観への対応が必要であり、医療に関する知識のみならず幅広い教養と人



間的成長が必要になってきます。学生のそういった成長を支えられるよう、また私自身がモデルとなれるよう日々精進していく所存です。

研究に関しては、現在バイオメカニクスの観点からの行動解析を主とした研究を行っています。今後は臨床に結果をフィードバックして看護に役立てたいと思っています。そして更に、臨床と連携した研究にも取り組んで行き、卒前・卒後を通じて専門職として目的意識を持って成長する学生・看護職の育成とサポートに力を注ぎたいと思っています。今後とも宜しくご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



### (経歴)

平成 8年 3月 藤田保健衛生大学衛生学部看護学科卒業  
平成 8年 4月 西日本旅客鉄道株式会社  
広島鉄道病院看護婦  
平成11年 4月 医療法人翼清会梶川病院看護婦  
平成11年10月 滋賀医科大学医学部看護学科  
臨床看護学講座助手  
平成14年 4月 広島県立保健福祉大学  
保健福祉学部看護学科助手

平成14年 4月 広島大学大学院保健学研究科  
博士前期課程入学  
平成16年 3月 同 修了  
平成16年 4月 広島大学大学院保健学研究科  
博士後期課程入学（在籍中）  
平成17年 4月 滋賀医科大学医学部附属病院  
看護部副看護師長  
平成17年11月 滋賀医科大学医学部看護学科  
臨床看護学講座講師

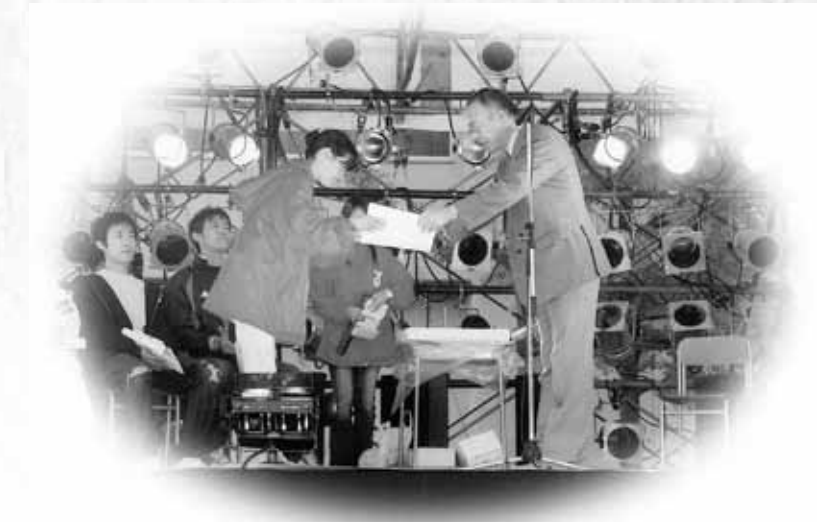
キャンパス  
ライフ

学 生 表 彰（平成17年度）

平成17年10月29日(土) 第31回若鮎祭開会式に引き続き表彰式が執り行われました。

今回、表彰を受けられたのは、平成16年10月から平成17年9月までの間に優れた業績で、評価を得た下記の10の個人及び団体です。表彰式では馬場副学長、永田学生生活支援室長、齋藤教務部長他大学関係者と八木若鮎祭実行委員長の列席のもと、吉川学長から受賞者に表彰状と副賞が

手渡されました。この表彰式の中で恒例となりつつある空手道部による板割りが仲宗根ありさんにより披露されました。吉川学長と八木委員長が受け手（板持）を担当し、雨天にもかかわらず多くの学生の見守る中で行われ、大きな拍手を受けました。和やかな雰囲気、かつ盛大な開会式となりました。



	推 薦 理 由	推 薦 者
医学科6年 根本 憲一	平成15年から動物生命科学研究センターにおいてES細胞の新規分化方法の開発研究に参加し、ES細胞を用いた再生医学研究において新たな概念、技術を確立した。その成果が学会誌(BBRC)に筆頭共著者の1人として掲載され、また、国際学会においても高い評価を得た。	指導教員 動物生命科学研究センター 高田 助教授
端 艇 部	第57回 西日本医科学生総合体育大会 総 合 優 勝	顧問教員 麻酔学講座 野坂 教授
空手道部 医学科5年 仲宗根ありさ	第57回 西日本医科学生総合体育大会 女子 形の部 優 勝	顧問教員 医療文化学講座 森田 助教授
バスケットボール部 医学科5年 宮澤 里紗	第57回 西日本医科学生総合体育大会 女子バスケットボールにおいて ベスト5プレーヤーに選出	顧問教員 生理学講座 松浦 教授
バスケットボール部 医学科2年 齊藤 奈津穂	第57回 西日本医科学生総合体育大会 女子バスケットボールにおいて ベスト5プレーヤーに選出	



	推 薦 理 由	推 薦 者
ハンドボール部	第57回 西日本医科学生総合体育大会 優 勝	顧問教員 分子神経科学研究センター 遠山 教授
水泳部 医学科6年 矢間 博貴	第57回 西日本医科学生総合体育大会 男子個人 100Mバタフライ 優 勝	顧問教員 生化学・分子生物学講座 大久保 教授
陸上競技部 医学科4年 佐野 善智	第64回 全日本医歯薬獣医大学対抗 陸上競技選手権大会 男子 400Mハードル 優 勝 男子 110Mハードル 優 勝	顧問教員 社会医学講座 西 教授
陸上競技部 医学科4年 仲谷 傳生	第57回 西日本医科学生総合体育大会 男子 ハンマー投げ 優 勝	
医学科4年 香取 さやか	JICAが主催する国際協力大学生エッセイコンテストで特選(独立行政法人国際協力機構理事長賞)に選ばれた。	指導教員 社会医学講座 埴田 助教授

# アメリカ自主研修を終えて

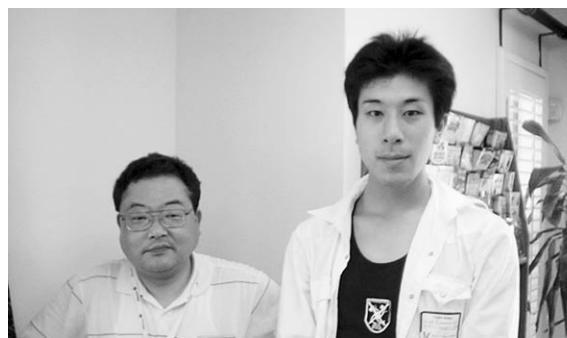
医学科第4学年 増田 俊樹

大概、こういった研修を迎える際には、研究に向けて何らかの準備やせめて目的があって然るべきなのですが、僕の場合、当初そういったものがほとんどありませんでした。それなのに何故このテキサス州のベイラー大学への研修に志願したのかというと、第一解剖のほとんどの研究生達がこの大学に留学経験があることもあって、第一解剖の研究にたずさわってきた僕も行くべきなのでは？というプレッシャーを漠然と感じていたから、というのが大きな理由です。第一解剖の研究室で実験の技術は長い間ご指導していただいていたので、何も出来ないわけではないとは思っていましたが、それでも現地に着くまで自分に何が出来るか、というより、そもそもどんなことをやるのか、ですら僕には見えていなかったのです。

さて、今回は普段御指導していただいている第一解剖の藤宮先生からではなく、共同研究をされている小島先生からの紹介ということもあって、

解剖学ではなく「分子遺伝学」という僕にとっては新しい分野での研修だったのですが、その程度の認識でしかなかったもので、旅は順風満帆どころか着いて早々、「分子遺伝学」とはどのような分野で、いったいどんな研究をしているのかというところから（先生の

本を借りて勉強し）始めなければなりませんでした。そうした勉強は苦にならなかったのですが、実際に研究に用いる技術において、解剖学と分子遺伝学は扱うサイズが違うので、分子遺伝学研究の特徴である精密性に慣れるまで、だいぶ苦労さ



小島先生とホテルのロビーにて

せられました。何せ僕達が吐く息、チップが触れるチューブの先にまでどこに不必要なDNAが付着しているかわからないので、DNAの情報を正しく得るためには、細心の注意を払った操作が必要でしたし、そうした操作の過程で機材や試薬がDNA汚染されてしまっ



ベイラー大学の正面

で当然、研究が思った通りのペースで進むはずもなく、僕は土日

手順で操作しているはずなのに微妙な、本当に微細な手技の違いで思い通りの結果が出ないことも数多くありました。

僕はこのベイラーで過ごした2ヶ月間で、糖尿病の遺伝子治療の研究を主に手伝っていましたが、そんな調子でしたの

で行わなければならない操作が多いことも理由なのですが、ベイラー大学という遺伝子工学の最先端の一角を担う大学の研究者として、責任と熱意をもって仕事にあたる姿勢を感じました。ただ、滞在中、遊びに行く用事も特にな

もともとすぐに成果が上がるものでもないとは思っていましたが、本当によやくやれることが増えてきたところで2ヶ月間の期日を迎えてしまい、とても残念でした。しかし、2ヶ月間もの間、自分にとって全く新しい分野に充実して打ち込むことが出来たのは本当によい経験だったと思っています。分子遺伝学という分野は一般的に、難しい、とっつきにくいという印象を持たれがちで、敬遠する学生も多いと思いますが、言うまで

も無く今後最も大きな可能性を秘めている分野の一つであり、またその研究における操作方法も、一般に抱かれているイメージよりも遥かにシステム化されており、学生レベルでも分かりやすくなっています。分子遺伝学という分野に限りませんが、願わくば多くの医学生にこうした「有用だとは思

今回、充実した研修を行うことが出来たのも、第一解剖の藤宮先生や今回推薦して下さった小島先生、また現地の先生方が信頼して任せて下さったおかげだと感謝しています。最後になりますが、感謝の言葉を申し上げたいと思います。本当に、ありがとうございました！



ベイラー大学前の噴水



## 自主研修を終えて

医学科第4学年 松岡 明希葉

今回私が行ってきたのはオーストラリアのメルボルンという街です。実は今回でオーストラリアに行くのは4回目だったのですが、メルボルンは初めて！しかも今回はいつものような旅行とか語学留学とかと違ってあくまでも目的はお勉強なわけで、行く前からかな



フラビーに餌付け

いつも笑顔で声を掛けてくださいました。あと、志水先生という日本人の方もいらっしゃって、中華料理を食べながら研究者がなんたるかを熱く語ってくださいました。言葉の壁があり、研究の内容を理解するのはとても大変でしたが、優しい教

授やスタッフの皆さんに助けられながら、研究室の雰囲気存分に楽しむことができました。

また、私は自主研修の期間を利用して医学専門研修というツアーにも参加しました。これはメルボルンの病院や施設を訪問したり、オーストラリアの医療制度について勉強したりするものです。外国の病院を見学するのは本当に良い勉強になりました。まず、医師も看護師も白衣を着ていない！みなさん普段着です。だから日本みたいに、いかにも病院って雰囲気ではなく、余計な緊張感や威圧感がないような気がしました。中でも赤ふちの眼鏡にウェスタンブーツの女医さんが印象的でした。モナッシュ大学では現地の大学生と一緒に病理の講義を受けたりもしました。内容はなんとか分かったのですが、先生の英語はさっぱり…。向こうの学生は授業に対して積極的で、日本の学生は積極的に質問するどころか居眠りまでしていて情けないなあとちょっと反省しました。教授と学生の距離が近いことにもびっくり！お昼は教授にごちそうになって一緒に食べたり、ケーキをごちそうになって、なんとお土産までいただいたちゃいました。学生さんも教授もとてもいい方で、本当に良い出会いでした。他にも緩和ケア病棟に行ったり、医療システムについて勉強したりととても充実していました。

### メルボルン大学の研究室

日本で大学の研究室に行くのでさえずごく緊張した私は正直初日は憂鬱でした。最初の難関はファーンネス教授の携帯に電話をしなければならなかったことです。ただでさえ英語は苦手なのに、電話でしかも教授に…ってことで、公衆電話の前で10分以上も何を話すかを練習しました。しかし、いざ勇気を出して電話してみると教授はすごくフレンドリーで、「迎えに行くから待ってて！」と言われて、そこでようやく緊張がとけました。研究室での日々は大変ながらも楽しいものでした。教授はとてもお忙しい方なので、私の面倒はスタッフのMichelleとVickyがみてくれました。二人ともすごく明るいお姉さんで、研究を見せてくれたり、説明をしてくれたり《いつも「Bored? (退屈でしょ?)」って聞いてきました》、またケーキが好きって言うとお昼休みにケーキを食べに連れて行ってくれたりしました。教授も私の顔を見ると

### メルボルンのお話

メルボルンはトラムという路面電車が走る結構大きな都市で、いろいろな国からの留学生がたくさんいるので日本人だからといって特別な目で見られることはありません。私はよく中国人に間違われました。二週間ほどホームステイもしていたのですが、それだけでどこでも行けるようになるほど交通機関も分かりやすく、また治安も比較的良いので、日本人の友達と真夜中にナイトクラブに行ったときも全く安全でした。むしろ地図を見ているだけで、大丈夫？って心配そうに人が寄ってくるくらい。そうそう、何かの勧誘をされたときに英語が分からない振りをしていたら“Bicth!”(性悪!というような意味です)って言われて(普通なら恐いんだろうけど)外国の映画みたいで私はちょっと嬉しかったです。また、観光名所にも行きました。グレートオーシャンロー

ドという大自然が作り出した美しい海岸で、野生のコアラを見たり友達と語り合ったりと最高の休日でした。大好きなウォンバットが動いているのを初めて見て、触れたことも最高の思い出です。

### 終わりに

思い出したことから書いていたのでなんだか乱雑な文章になってしまいました。まだまだ書きたいことがたくさんありますがそろそろ終わりにします。今振り返ってみると、大変なこともたくさんありましたが、とても充実した1ヶ月でした。医学生としても人間としても大きく成長できたような気がします。

最後にこのようなすばらしい経験をさせてくださった木村(宏)教授、ファーンネス教授を始めスタッフの方々、向こうで出会ったたくさんの友達、ありがとうございました。



大好きなウォンバット



メルボルンの町並み

## 滋賀医科大学の留学生支援に想う

病理学講座（分子診断病理学部門）教授 服 部 隆 則

滋賀医科大学では、現在21名の外国人留学生が勉学している。中国からが10名と最も多く、インドからが2名、バングラデシュからが2名、台湾、ブルガリア、モンゴル、ハンガリー、エジプト、オランダ、ベラルーシからがそれぞれ1名である。13名が大学院で就学中である。21名という人数は、本学の規模のような大学にとって多いか少ないかは議論のあるところであろうが、留学生の受け入れを含めて国際交流を促進することは大学の重要な使命の一つである。

本学では、法人化以降、国際交流を促進するため国際交流支援室が設置された。相浦教授が室長を、6名の教員、研究協力課の2名と学生課の1名の事務方が委員を務めている。支援室では、国際交流に関する企画・立案、国際交流関係事務の調整、国際交流に関する相談窓口業務や外国人滞在者に関する生活支援などを業務にしている。また、滋賀県国際協会、大津市国際親善協会や草津市国際交流協会などとも連携している。

外国人滞在者にとって宿舍の確保が最も重要、かつ困難な問題であったが、平成3年に国際交流会館が設置されてから居住に関する問題は軽減された。国際交流会館には単身者用に16室、夫婦用に5室、家族用に3室が用意されており、平均65%ほどの入居状況であったが、今は満室になっている。国際交流会館ができるまでは職員会館が宿泊に利用されていた。これは今でも短期間の滞在に使用できるので、本学の宿泊施設数は整っているといえよう。しかし両施設は古くなっており改修が必要である。うまく改修すれば宿泊だけでなく、少人数の研修会やセミナーなどにも利用できるであろう。

留学生支援業務は学生課が取り扱っている。就学に関する事務手続きや奨学金申請の支援が主な業務であるが、最近では、外国人留学生との交流会や留学生見学バス旅行などを企画している。交流会は平成16年度は1月に福利棟1階の学生食堂で催され、留学生と本学職員、また、近隣の、留



学生のお世話をしているボランティアの方々などが参加された。交流会は、今年度も1月に同場所で催される予定である。

平成17年9月27と28日には留学生バス旅行がおこなわれた。12名の留学生と、その家族、計16名が参加した。訪問先は広島平和公園・資料館、厳島神社、倉敷と姫路城であった。2日間で、バスで広島を往復するのは大変な旅行であったが、原爆資料館は留学生にとっては感慨深いものであり、倉敷の古い町並みや姫路城も印象的であったようである。27日の夜は宮島で宿泊したが、参加者は懐石料理に舌鼓をうっていた。しかし、隣室の老人クラブの宴会でのカラオケ大会の騒音には、少々閉口しているようであった。

私は、若い頃、フンボルト財団の留学生として当時のドイツのボン大学に留学した。フンボルト財団はアメリカのフルブライト財団に比肩する、非常によく組織化された留学生支援組織である。奨学金金額もさることながら、面倒見のよさには定評がある。ドイツで勉学を始める際には、

地方都市でオリエンテーション会議が催され、それに招待される。8月にはボンで年次総会があり、そこで大統領やフンボルト財団スタッフの人達との歓談の場がもたれる。また、Lindau市で催されるノーベル賞授賞者との懇談会に招待される。秋にはドイツ・ツアーということで、一ヶ月間ドイツ国内を周遊する旅行にも招待された。国賓のように扱われることに恐縮しつつも心地よさを感じていたが、留学中にお世話になった恩を、本学に奉職してからも、多くの人に返したいという思いで過ごしてきた。私たちの講座では、現在6名の留学生が勉学している。人伝てに、あるいは、私どもの研究文献をみてアプライされた人が大半であるが、なるべく、その人達の希望をかなえるべく対応している。留学生のお世話は大変であるが、それなりにやり甲斐がある。また、本年度からは国際交流支援室の委員にも加えていただいているが、これからも私なりに滋賀医科大学の国際交流に尽力したいと考えている。





## 外国人留学生等の宿泊研修旅行実施

去る9月27日(火)、28日(水)に本学の留学生や外国人研究員等を対象として、広島方面への1泊2日の宿泊研修旅行を実施しました。旅行には相浦国際交流支援室長、支援室員の服部病理学講座教授、栗本学生課専門職員の3名の引率の下、留学生等16名が参加し総勢19名で実施されました。

初日は広島原爆ドーム、広島平和記念資料館の見学の後、宮島にて宿泊し、2日目は宮島散策、帰路にて岡山の倉敷美観地区散策、姫路城見学と日本の世界文化遺産を中心に見学し参加者は有意義な研修旅行を行ないました。

### 研修旅行に参加して

生化学・分子生物学講座 外国人客員研究員 安 朋 萍

At first, I should say "Thanks" to our university!

And our teachers of this university are kind and friendly, and render a service for our foreign students.

Secondly, I enjoyed this trip. This trip was meaningful to all of us. Because all of us are foreigners, we don't know the history about Japan so much. And we had a chance to eat so many Japanese traditional food. From the reason above, I am very happy.

まず最初に、大学に対して感謝の意を述べたいです。関係の先生方は親切で友好的で、私たち留学生に本当によくしてくれます。ありがとうございます。

この旅行を私は大変楽しむことが出来ました。私たちは皆、外国人で、日本の歴史についてあまり知らないの、この旅行は私たち参加者全員にとって意義あるものでした。また、たくさんの日本の伝統的な料理を食べることも出来ました。こういう訳で、私はとても嬉しかったです。

和訳：上田祥子(研究協力課・国際交流アソシエイト)



筆者、右側



## 研修旅行に参加して

解剖学講座大学院生 黄 玉 紅

After I visited Hiroshima Peace Memorial Museum and Park, I think it is important to keep a nuclear-weapon-free world and peace is more important.

Other places which we visited were also very nice. It gave me a good memory.

広島平和記念資料館・公園を訪れて、核兵器のない世界を作ることは重要、平和はとても大切だと思いました。今回訪れた他の場所もとても良かったです。良い思い出となりました。

和訳：上田祥子(研究協力課・国際交流アソシエイト)



筆者と娘さん



●サークル紹介 空手道部

空手をやりませんか？

空手道部主将 医学科第3学年 立石 周平

空手をやりませんか？  
空手を知っていますか？  
では滋賀医大の空手道部は御存知ですか？  
滋賀医大の空手道部がどんな部なのかを、  
現在の部員が空手道部についてどう思っているのかを  
言ってもらい、紹介してみましょう。

週3回、楽しく明るく稽古に励んでいます。初心者から始めた人がほとんどなので未経験でも気兼ね無く参加できます。皆とても仲がいいクラブです。新入生でもいきなり秋の大会に出たりと、活躍の場はたくさんあります！実際に人を相手に戦うのが嫌な人でも、架空の敵を相手に技を出す「形」もあるので、女性の方でも気軽に見に来てください★

(1年生女子)



初心者でも、自分次第で上手くなれ、やっているうちに楽しくなってくるスポーツだと思います。また、部活の雰囲気も窮屈すぎないところがいいと思います。

(3年生女子)

うちのクラブは良くも悪くもマイペースです。空手は個人競技なので頑張りたい人はどこまででもやれるし、体のための運動でよければそれはそれでいい。マイペースで、個性的で、飽きないクラブですな(；^\_^A)

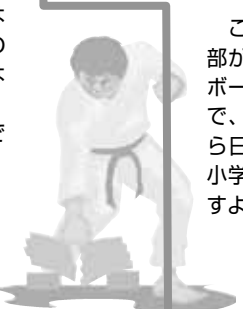
(3年生男子)

空手は個人プレーが多いから組手も形も自分のペースでできるし、今まで運動してなかった人でも一から始められる所が魅力です。空手と聞いたら瓦割とか怖いイメージが浮かぶかもしれませんが、そんな恐いことは一切していません。人数も他のクラブと比べて少ないですが、その分アットホームな感じで良いです。

(4年生女子)

この部のいいところは兼部ができること。僕はソフトボール部と兼部していますので、夏休みなんかは日の出から日の暮れまで、そこら辺の小学生より夏を満喫していますよ。

(5年生男子)



なるほどなるほど。こんなクラブなのですね。「初心者」「マイペース」という言葉が多かったですかね。確かに以前から空手をやっていたという人は少ないです。空手は個人競技ですから自分次第、マイペースというのもうなずけますね。でも、試合の前は結構皆ががんばろうという気持ちになっています。「形」というのはいわゆる演武で、うちのクラブにはその「形」の部で西医体で優勝した人があるというのが自慢です。「兼部」というのはうちの部が土曜日に練習がないからなんですね。これがなかなか良いところで、週末はアルバイトをしたり遊んだりすることもできるわけ

す（おっと、もちろん勉強も）。「瓦割」はしないですね。確かに空手をやっていけば板や瓦を割れるようになるのかもしれませんが、板や瓦を割るために稽古をするわけではありませんからね。「アットホームな感じ」はすごします。本当にとても居心地のいいクラブです。週3回、武道場で基本の突き蹴りを中心に、試合前は組手や形、審査前は形を練習しています。練習は佐野武司師範（和道会錬士六段）に御指導していただいています。ざっと、こんなクラブです。みなさんも、きっと空手道という道にはまること間違いありません。一緒に空手をやりませんか？



# 国際保健医療研究会(Tuk Tuk)

サークル代表者 医学科第4学年 香取 さやか

私たち国際保健医療研究会(Tuk Tuk)はアジア、アフリカを中心とした途上国の保健医療に興味を持った学生のサークルです。今年は夏のラオス・スタディツアーを目標として、渡航計画、ラオス・日本の比較勉強やワークショップ、また、毎週昼休みにラオス語勉強会などを行なってきました。

## ラオスでの農村生活を体験して医療を考えたとき

医学科第2学年 関 千寿花

去年の冬にサークルでの活動の方向性を考えていたとき、私たちは医療・保健に焦点を当てすぎているが、病院だけを見ている患者さんについては何もわからないのではないか、という共通認識を持ちました。そのためには、実際の生活を肌身で感じる事が一番だと私はそのときに感じ、

その流れで今回、ラオスでのスタディツアーを企画することになりました。結局、ラオスの保健事情に焦点を当てた活動にはなりましたが、農村で二泊のホームステイも経験することができ、短い滞在期間だけでもわかったこと、



総合させゲームをしながら、お互いの文化を交流

やはり理解しきれなかったことなどを自分なりにまとめることができました。今回の経験は自分の立てた仮説“病気や疾患は生活の中にある”ことを理解する手助けになったように思います。今回、私に理解できたことは医療活動には定義などないということでしょうか。

実際、何の接点もない農村に学生のみで訪問するのは難しいため、私たちはあるNGOにお世話していただいてホームステイを実現しました。農村では、私たちの企画した交流会を行いました。その交流会は、同



村の小学校で子供たちとなわとび



ホームステイ先の家業は、唐辛子の栽培と加工だった

じ質問を住民（ラオス側）と私たち日本側で考えて、答えの違いから文化的なギャップを感じよう、という趣旨のものでした。私の一番のショックは、一番大切なものはなんですか？という問いに、ラオス側が“水”と答えたことでした。私たちは日本人の一般的価値観であろうと考えた“家族・恋人”と答えました。「家族や恋人、友人は本当に大切だけど、それだけじゃ生きていけないんだよ。」と、あるおじさんの目が語っていました。私たちは蛇口をひねればきれいな水が出てくる状況に暮らしているので気づかないけれど、本当に、生き方が変れば視点が違ってくるものだなと感じ、その時ふと、この国にとって医療とは何を指すのだろうか、と、原点まで思考が飛んだのでした。例えば、発展途上国の医療の分野では、きれいな飲料水がないために亡くなっている多くの人々を助けようと必死になっています。彼らもきれいな飲料水があれば生き延びられるかも知れないことを知っていると思います。しかし、そういう理屈でなくて、実際にきれいな飲料水を手に入れない生活をせざるを得なかったのです。水道を作り、きれいな飲料水にアクセスできるようにすることも、十分に医療活動なのかもしれないとも思いました。あるおじさんが「10年いた



お別れの儀式で村人から腕に糸を巻いていただいた

らこの村がわかる。いいところだとわかって帰りたくなる。」としきりに私たちに言っていたのですが、どこかで医療活動をするのなら、本当に10年でも20年でも人々と共に一緒に暮らす必要があると感じました。そこで

生活してみないと問題点が見えてこない ことを知りました。

本当に病気や疾患は生活の中にあると実感しました。薬だけでは、病院にいる間だけでは、到底治療なんか仕切れない。生活の中で治していく、治せなければうまく付き合っていく。そんな医療のあり方を間近に感じました。世界中のどこで医療活動をするにしても、その人に見合った医療を提供したいなら、その人が生きている生活環境や生活の仕方に終始注目する必要があるようです。医療は独立してしまったときから医療の目的を果たせない、矛盾した体系の中に存在するのかもしれない。それは発展途上国における医療だけでなく、最先端の遺伝子治療や日本でも当てはまると思いました。自分のことは、病気も含めて自分が一番よく知っている。しかし、このことを、私たちは医学知識の名の下に、どこかに忘れてしまっているような気がしました。



電気のない村でのホームステイ。夜はろうそくで団欒の時間を過ごした。

## 第31回 滋賀医科大学解剖体慰霊式を実施

去る10月20日(木) 午前10時から本学体育館において、ご遺族、ご来賓、しゃくなげ会会員及び教職員・学生600余名の参列の下に、第31回滋賀医科大学解剖体慰霊式を執り行いました。このたびは系統解剖35霊、病理解剖68霊、法医解剖49霊、計152霊を新たにお祀りし御霊のご冥福をお祈りしました。

慰霊式では、出席者全

員で御霊に黙祷を捧げ、諸霊法名拝誦、吉川学長及び学生代表による慰霊の辞、山中しゃくなげ会理事長の献辞、出席者全員による献花が行われました。

最後に、ご遺族代表の森昭一氏、本学教授代表として病理学講座の小笠原教授からご挨拶がありました。



## 平成17年度 研究動物慰霊式を実施

去る11月8日(火)に、本学研究動物慰霊碑前において平成17年度研究動物慰霊式が執り行われました。

慰霊式には、学長、副学長をはじめ113名が出席し、全員による黙祷の後、動物生命科学研究センター長小笠原教授、動物生命科学研究センター

利用者代表の山本好男学内講師から慰霊の辞が述べられました。

その後、出席者全員による献花が行われ、過去一年間(平成16年10月～平成17年9月)実験に供された動物の御霊を慰霊碑に納め、冥福を祈りました。

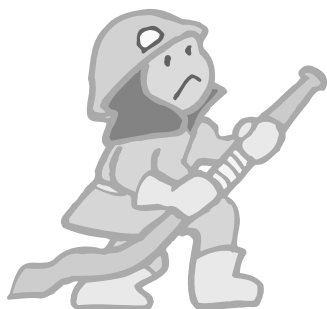


## 平成17年度 後期消防訓練を実施

去る11月29日(火)、本学職員の火災に対する知識・技能の取得及び防火意識の高揚を図り、万一火災が発生した場合に迅速な人命救助と資産損失の最少防止を実現できることを目的として、湖南広域行政組合西消防署の協力のもと、本学教職員約130名が参加して平成17年度後期消防訓練を実施しました。

訓練は、平日、昼間において病棟での火災発生を想定し、火災発見から初期消火、通報、避難誘導及び救護等の訓練を行いました。

また、引続きグラウンドでの消火器を使用した消火訓練等に、訓練参加者は真剣に取り組み予定を終了しました。





## 学生課からのお知らせ

医学科6年生

看護学科4年生 各位

### 更衣ロッカーの明け渡しについて

現在使用中の更衣ロッカーは、皆様が卒業後、翌年4月以降は新入生が使用することになります。ついては、ロッカーの入れ替えが円滑にできますよう、下記の取り扱いとしますので、ご協力をお願いします。

#### 記

**使用期限** 平成18年3月25日（土）

※卒業式の翌日まで

#### 使用終了後の整理

使用を終えた学生は、次の要領でロッカーの整理をお願いします。

- ① 中を空にし、次の後輩が使用できるよう、きれいにする。
- ② 扉に貼付してあるネームプレートを横向けに貼り直す。
- ③ 施錠しないで扉を閉める。

この状態のロッカーは、順次学生課で空きロッカーとして管理します。

使用予定のない学生は、早めに整理をお願いします。

**留意事項** 期限後も未整理のロッカーは、学生課が開錠し、中の物は処分します。

**本件担当** 学生課 専門職員(課外活動担当) TEL. 077-548-2070

メール：hqkagai@belle.shiga-med.ac.jp

学 部 学 生

大 学 院 生 各 位

### 海外渡航を行う際の届けの提出について

標記については、旅行等による海外渡航には事前に所定の「海外渡航届」を学生課に提出するよう学生要覧において通知済みであります。昨今の海外情勢（イラク問題、SARS、鳥インフルエンザ等）を鑑み、必ず届けを提出するようあらためて通知いたします。

用紙は学生課課外活動担当にありますので必要な場合は申し出てください。

なお、渡航に際しては渡航地周辺の情報把握につとめ、危険な計画は立てない、危険な場所には行かない、行動には十分注意する等、各自の責任において安全な渡航を行ってください。

#### 参 考

外務省海外安全相談センターによる海外安全ホームページ

<http://www.pubanzen.mofa.go.jp>



#### 前号記載事項の訂正

訂正ヶ所	正	誤
目次・12ページ	伊原 正幸	井原 正幸
お詫びして訂正します。		

### 編集後記

勢多だよりNo.70は「若鮎祭特集」号として発行いたしました。開学以来30年間、若鮎祭と言えば中庭の水上ステージがイメージされるほど中庭での大学祭が卒業生や大学関係者には親しまれていました。

今年、思い切って会場を西門駐車場に移し、これまでになく多くの観客を動員でき、無事に終了できたことは大成功でした。実行委員の皆さんの熱意と努力に敬意を表します。

今回の経験のよい点は後輩達に継承してもらい、まずかった点は反省の申し送りをして、滋賀医大の新しい大学祭の伝統を築いて欲しいと願います。

編集長 今本喜久子

#### ●勢多だよりの由来●

勢多は勢田、世多、瀬田とも書かれるが、古代、中世の文献では、勢が多用されている。それに勢多は「勢（いきおい）が多い」という佳字名称である。従って、いきおいが多かれと願う本学関係者の想いにぴったりということで、瀬田とせず、あえて勢多とした。

（題字は脇坂行一初代学長による）

勢多だより No. 70

発行年月日：平成17年12月26日

編集：「勢多だより」編集担当者会議

発行：滋賀医科大学広報委員会



### 学章の説明

「さざ波の滋賀」のさざ波と「一隅を照らす」光の波動とを組み合わせたもの。  
「中心に向かって、外からさざ波の波動—これは人々の医への期待である。外に  
向かって中心から一隅を照らす光の波動—これは人々の期待に返す答えである。」